

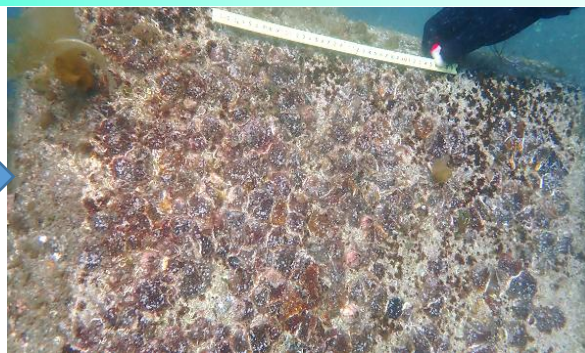
1 岩盤清掃を行い、イワガキ幼生が付着しやすい環境をつくります



・礁表面がフジツボ等の付着物に覆われるとイワガキ幼生の着底が困難



・ケレン棒を用いて岩盤清掃
(9月下旬～10月下旬)

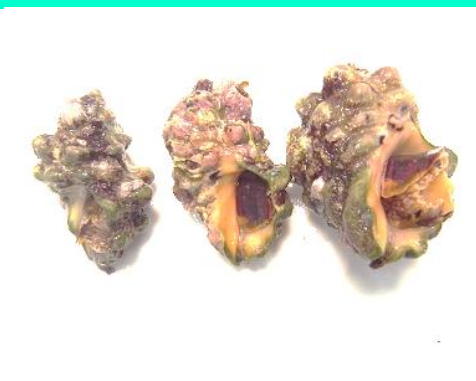


・イワガキ幼生が着底
殻高0.5～2.5mm (4か月後)



・漁獲サイズ (殻高10cm: 5年後)

2 レイシガイを駆除し、イワガキ稚貝の生存が高まるよう環境を目指します



・レイシガイ



・活発に活動し、産卵時に蠕集
・食害は6～8月に多い



・食べられた痕

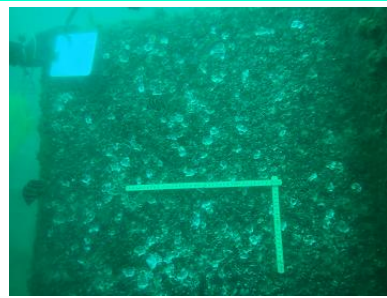


・潜水による駆除



・付着物の除去、砂抜き、
選別後出荷

3 モニタリングを行い、より効果的なイワガキ増殖策につなげていきます



イワガキ礁1面(0.8m×0.8m)あたりの イワガキ稚貝個体数	判定
150～750個体 (大きさ: 殻高約0.2～3.5ミリ)	良好 ⇒前年度の清掃時期や清掃方法が適していたと判断
50個体未満(大きさ: 同上) ※フジツボ等が優占	少ない ⇒清掃時期(フジツボやヒバリガイ等が優占する場合は清掃時期が早すぎる)や清掃方法の見直し(礁の表面が露出するまできれいに研磨できていたか)が必要。 必要に応じて、再度、岩盤清掃を行う。